



2 調査の結果

(1) 緑・自然について

里山の保存・活用法や市街地の公園のあり方の提案

○里山の調査では、手つかずの自然が住宅団地の近くに残されていたり、果樹畑や野菜畑が広がり、とても緑が豊かなことが分かりました。一方、荒れたままの竹ヤブやタイヤなどの不法投棄が見られました。

○残された自然を保存するためには、ルールや仕組みづくりが必要です。具体的にはボランティア導入や法規制することも考えられます。

○自然の活用法では、環境教育の場、市民菜園、自然で遊ぶ広場などにすることも考えられます。また、地元の人との触れ合いの場として活用することも必要です。

○公園の調査では、最初に調査した公園は、だれもいず、ごみ袋が山積みになっていて、トイレも汚れていました。周囲には金網フェンスがあり、入り口にも段差がありました。

2つめの公園は、小学校と隣接し、境にフェンスもなく、学校と一体化しており、子どもたちが学校から自由に入れるようになっていました。

○公園は、森があったり、ビオトープがあったり、緑豊かなほうがいいのですが、目的はゲートボール用や避難所などいろいろありますから、テーマ設定が大切です。市民全体のためのものか、地域のためのものか、子ども用か、市民の昼休み用かなど、目的を明らかにした公園づくりが大切です。



○公園を誰がどのように育て、守るのかでは、里親制度（アダプトプログラム）を導入して市民に預けたり、管理ボランティア、ごみ収集ボランティアを組織することも考えられます。また、小学校に隣接することも、管理面を補う一つの方法です。

(2) 歴史・資源について

歴史的な街並みの保存や維持のあり方の提案

○旧東海道を歩いて調査しましたが、狭い道で車の交通量が多いことに驚きました。

また、昔の家並みが残り、鎮守の森がありました。築100年、200年以上の家もあり、残そうという意志が見られました。しかし、格子がアルミになっている家などもあり、残



してほしいというだけでなく、経済的な補助があれば、違う残し方ができるのではないかと思います。

○今ある家は残したい。これから建てる家は、街並みにマッチしたものを建ててほしい。

そして、そこを歩けるようにしたいと思います。空いている民家をどう活用すればいいかを考えたり、歴史的な街並みがあることを知らない市民がいるので、ウォークラリーなどで宝物があると知らせることも必要です。

また、交通量が多いので、一方通行にしたり、歩行者に限定するなどの規制を考えることも必要です。道路に電柱を無くすことも考えられます。川はみんなでクリーンにしたいと思います。

○古い街並みの保存を考えてみると、調査者は、あくまで外部観察者であり、そこで生活している人はどう思っているのか、どうしたいのか、生活者の視点で考えることが大切です。だれから始めるか、何を始めるか、地元の生活者が今の状況をどう思っているか、どうしたいかを聞き、それに基づいて考えていくことが必要です。

